

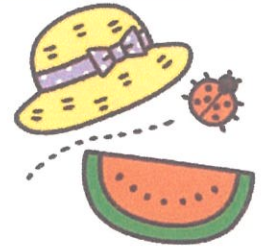


令和4・5年度 港区教育委員会研究奨励園

# 麻布幼稚園だより

令和5年7月号  
港区立麻布幼稚園  
園長 酒井 正美

7月、文月。梅雨明けは、まだもう少し先になりそうですが、天気の良い日には、水を使った砂遊び、色水遊びなど、この時期ならではの遊びが展開されています。今月は、プールや水を使った遊びをたっぷり楽しみ、水の心地よさや水の特長、おもしろさを十分に味わってきたいと思います。



先日、4歳児が色水遊びをしていました。水を少し入れた小さなビニール袋に、園庭のプランターで見つけた咲き終わった花を入れ、指で揉み、何ともきれいな色水をつくっていました。少しずつきれいな色が出てくると、「色が出てきた!」「みてみて!」と、とてもうれしそうです。近くで遊ぶ友達の色水と色を比べてみたり、違う色の花でもう一度つくってみたりと、繰り返し楽しんでいました。初めのうちは、水を入れ過ぎてしまったり、花を水に入れてだけできれいな色が出なかつたりする姿がありました。「どうやってつくったの?」と友達に聞いたり、友達がする様子を観て真似たりと、それぞれの方法できれいな色水をつくっていました。

幼児が「色水をつくりたい」と思い取り組むような自発的な活動としての遊びの中では、幼児の主体的な力が発揮され、生きる力の基礎ともいうべき生きる喜びを味わっています。そして、能動的に対象に関わる中では、好奇心、探索、思考、自己の表出等があり、知識を蓄えるための基礎が形成されます。また、ものや人との関わりにおける自己表出を通して自我を形成し、自分を取り巻く社会への感覚を養っていきます。

幼稚園で展開される総合的な学びとしての遊びの一場面を紐解くと、幼児のたくさんの学びを見取ることができます。これらの学びは、小学校以降の生活や学習において重要な、自ら学ぶ意欲や自ら学ぶ力の基礎となります。

幼稚園の教員は、各学年の幼児にふさわしい生活が展開され、幼児が直接的・具体的な体験を通して学ぶことができるよう環境を準備し、幼児に合わせた援助をしていきます。

「色が出てきた!」と、直接的・具体的な体験を通して幼児の心が動くところにこそ、学びがあります。本当にきれいだと感じ、心が動き、「見て、キラキラしていてきれいだよ!」と思いを伝えたい体験が、子供の言葉を育みます。語彙が増えることは大切ですが、単に語彙が増えればよいということではなく、幼児の身体を通じた体験から思わず出る言葉や、相手に伝えたいと思えば自分の思いや考えを言葉に表し伝え合うことが、幼児の豊かな言葉や表現へとつながります。

雨の音を聴いたり雲の形を楽しんだり、虫や花を見付けるなど、日常の中には幼児の心が動くきっかけがたくさんあります。幼児が何度も繰り返し楽しんでいる中には、学びがあります。

梅雨を経て夏本番となるこの時期、そして夏休みも始まる7月。大人のペースや娯楽だけではなく、また、先取りをせず、忙しい日常に少しの余裕をもち、お子さんが何に心動かし、何を楽しんでいるのかに心を寄せてみていただきたいと思います。そして、保護者の皆様もお子さんと一緒に楽しみ、たくさんの会話をしていただければと思います。